



市長の ふれあい訪問



「シンガーソングライター・工藤 慎太郎」

川口駅西口のデッキ上で路上ライブ活動を続け、平成18年にCDデビューを果たした川口市出身のシンガーソングライター・工藤慎太郎さん。
「キューポラ」などを歌詞に取り入れた新曲の全国キャンペーンを行っている工藤さんを岡村市長が訪問。現在の活動内容などをお聞きしました。

市長 みなさんこんにちは。今年もあと2カ月となりました。慌ただしい毎日が続くかと思いますが、健康に気を付けて年内頑張っていたきたいと思います。

さて、今月の市長のふれあい訪問は、川口出身で、現在人気上昇中のシンガーソングライター・工藤慎太郎さんです。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめにお聞きしますが、工藤さんは、子どもの頃から歌に興味があったのですか。

工藤 母が音楽好きで、車で出かける時は、いつも色々な曲が流れていました。

ギターを弾き始めた時も、初めて聴いてもらったのは母でした。

市長 本格的に歌い始めたのはいつですか。

工藤 中学3年生の時です。最初はフォークソングを歌っていましたが、1年後には、自分で曲を作り歌っていました。

中学校時代、音楽の先生に聴いてもらったら、「いいじゃない、才能があるわよ」と誉めてもらって、そこで舞い上がってしまいました。あの時に批判されていたら、今の自分は無かったと思います。

市長 路上ライブはいつから行っているのですか。

工藤 高校時代から行っていたのですが、プロを目指して本格的に始めたのは5年前の23歳の時です。毎週金曜日に川口駅西口のデッキ上で、改札を抜けて帰ってくる人たちに向け、1時間のライブを行っていました。

市長 テレビの勝ち抜き歌番組に出演し、10週勝ち抜きを達成しスカウトされたと聞いていますか。

工藤 はい。毎週5人ぐらいの挑戦者がいて、10週勝ち抜くのに苦労しました。毎回、自分で作詞・作曲したオリジナル曲でチャレンジしました。

その番組を偶然見ていた歌手の八代亜紀さんの目にとまり、スカウトされました。

市長 それだけ、工藤さんの歌が八代さんの心に響いたのでしょうか。

工藤 発売日に、変装してCD店に行ったのですが、1時間待っても誰も買ってくれませんでしたので、仕方なく自分で2枚購入してしまいました。

でも、その時CDに向かって「おまえを全国に届けてやるからな」と誓いました。

その思いが届いたのか、平成18年に第39回日本有線大賞新人賞をいただきました。

市長 それはおめでとうございます。



ところで、新曲「愛でいこうぜ!」の中で、川口の思い出を語る歌詞がありますが、この歌に対する思いを聞かせてくれませんか。

工藤 自分の原点は川口だと思っています。煙突のある工場を見て育ったので、その風景、川口の象徴の「キューポラ」などを歌詞に取り入れられたらと思います、作詞しました。

市長 私も鋳物工場の息子として育ちましたので、歌詞に「キューポラ」などが登場することは、嬉しく思います。「愛でいこうぜ!」がヒットすれば、吉永小百合さんが主演した「キューポラのある街」以来、「キューポラ」川口市の名が全国に届きます。

ぜひ、工藤さんの曲がヒットしてくれるよう願っています。

工藤 ありがとうございます。来年1月にリリアで3周年記念コンサートを行います。ぜひお越しいただければと願っています。

市長 はい、分かりました。みなさんも来年1月、工藤さんに会いに行ってくださいね、と思います。これからもしつかり頑張ってください。今日はありがとうございました。